

様式(細則 5-2)

令和3年11月11日

浜田市議会議長 笹田 卓 様

議員名 芦谷 英夫

調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため(視察 研修)を(実施 受講)したので、その結果を報告します。

記

- 1、期 日 令和3年10月31日(日) 14時～15時30分
- 2、研修内容 「日系ブラジル人を松江びいきにしたいって・・・。」
- 3、研修先 松江市(今井書店本社)
- 4、調査経費 交通費 7,260円
駐車料 400円
参加費 500円
- 5、調査研究活動の概要 別紙のとおり



トーク「日系ブラジル人を松江びいきにしてくって・・・。」出席のため

令和3年11月11日

- 1 日時 令和3年10月31日（日）14時～15時30分
- 2 場所 松江市（今井書店本社）
- 3 演題 「日系ブラジル人を松江びいきにしてくって・・・。」

フジアルテ(株)日本語教師 木谷 恵子

4 概要

- ① 講師 木谷恵子さんは、村田製作所（出雲市）で働く日系ブラジル人に対して、日本語を教えており、日系ブラジル人との交流を通じて、日本での、地方での日系外国人の定着や地域との交流について実践しており、交流による地域づくり、日系人と共生する活性化について提言された。⇒日系人、在日外国人との共生による地域づくり
- ② 日系ブラジル人が多く働いている村田製作所でのその収入は、10万円未満4%、10～19万22%、20～29万29%、30万以上19%などとなっており、高価なもの（自動車など）を買う、レジャー、食事など消費は旺盛である。⇒消費者としても重要
- ③ 一例として、日系ブラジル人に着物のレンタルを紹介したところ、口コミやSNSで拡散され、松江市の名所旧跡を着物姿で散策することがブームとなり、外国人入込客の増、観光資源の掘り起こしにつながっている。⇒浜田の新たな資源の発掘、磨き（自然、石見神楽、食・・・）
- ④ ブラジル人は、家族、夫婦、友人と行動を一緒にしている、口コミやSNS、写真などで交流するブラジル人のネットワークがある。休日は公園などでのバーベキュー、よく行く店はファミリーレストランでメニューの写真での表示、日本人より四季を楽しむ（花見、海、スノーボードなど）。⇒日系人、在日外国人の生活の現場からの支援と交流

5 所見

- ① 浜田市には、在日外国人、技能実習生など583人（令和3年、平成28年は631人、コロナで減少か？）、県立大学には23人（平成29年は50人、コロナで減少）が在住しており、交流人口の増加を図る観点から、総合的体系的な政策を推進する必要がある。
- ② 島根県はインバウンド外国人観光客が全国で最も少なく、最も力を入れるべき分野であり、加えて石見部は出雲部に加えて大きく後れをとっており、出雲部を視野に入れ連携などインバウンド施策が急がれる。
- ③ 浜田市の体制、国際交流協会では、ベトナム、中国からの国際交流員が在籍し（近く英語圏からの国際交流員が赴任の予定）、語学講座、交流事業などを行っており、うち語学講座はベトナム語、中国語、韓国語などを行い、近く英語の講座も始める。
- ④ 民間では、マリントークの会、日本語ボランティア「1・2・3」などが活動しており、これらの連携と支援が必要となっている（講座の会場費など）。
- ⑤ 一方江津市には、はなまる日本語学校（松川町上津井）が開設されているが、コロナの関係で学生は少なかったが、12月12人、1月～2月20～30人、春40～50人、秋60～70人の入学を見込んでいる（江津市商工観光課）。 一以上一